第３章　戦略の方向性

3.1　狛江市のめざす自然環境像

狛江市が最終的にめざすべき生物多様性の到達目標として、「めざす自然環境像」を次のように設定します。

子どもたちにつなげよう！
身近な自然と暮らしが寄り添う

“水と緑といのちが輝く　こまえ”

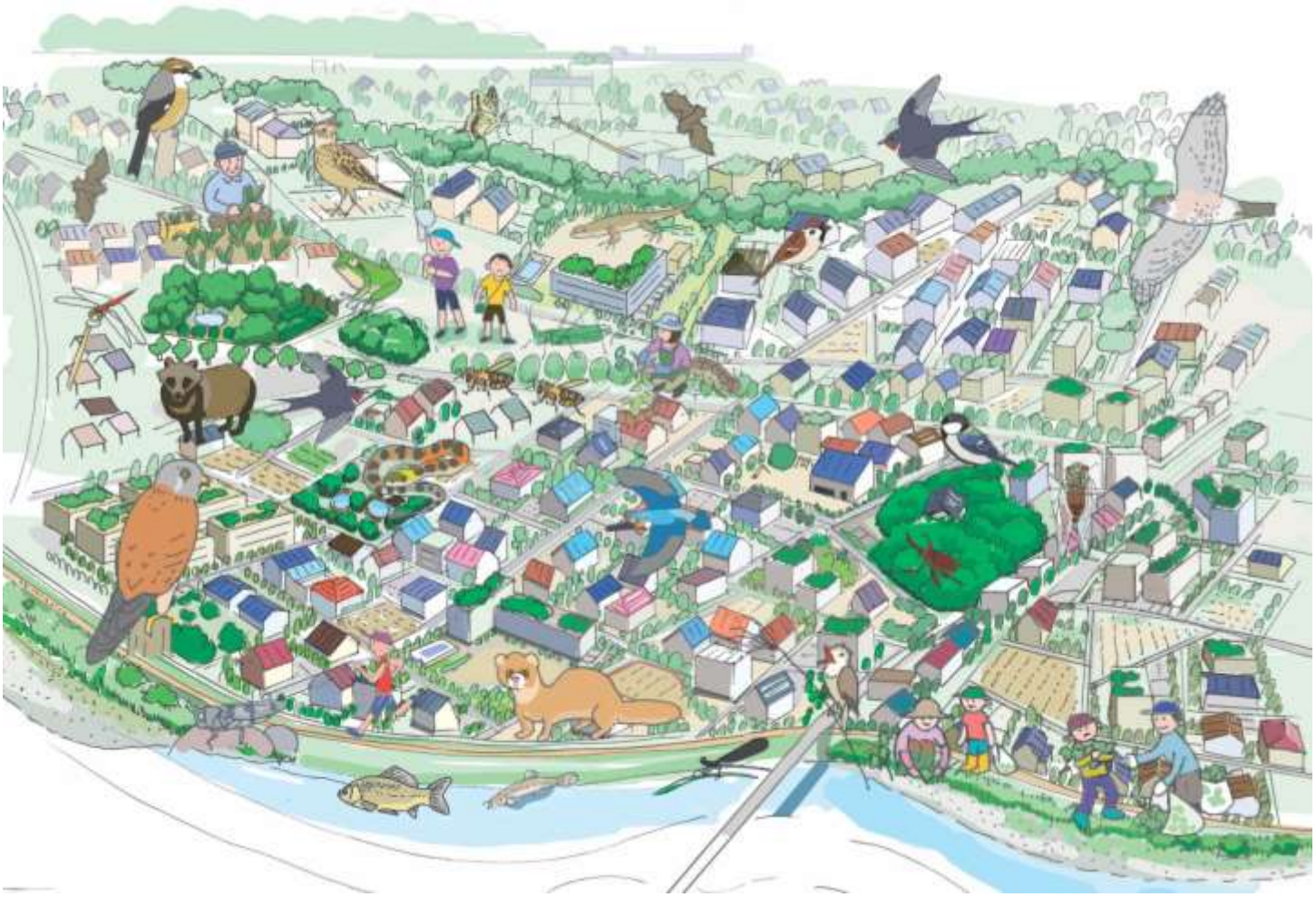

図 3.1　狛江市のめざす自然環境像のイメージ

■　水と緑といのちが輝く

狛江市は、高層ビルが立ち並ぶ新宿から 20～30 分という好立地にありながら、自然環境のシンボルでもある多摩川をはじめ、野川、その間をつなぐように伸びる岩戸川緑道、野川緑道、そして駅前には歴史的な背景もある狛江弁財天池特別緑地保全地区等の自然が存在します。これらの自然の拠点や軸が、まちなかのちょっとした緑・水辺によってつながり、多くの生きものの“いのち”が息づき、交流しています。

また、人々は、生きものの生息・生育、人への癒し、気候の調節等、自然がもたらす様々な恩恵への感謝や自然への畏敬の念を持ち、“いのち”を大切にしています。

多摩川や野川を軸に、狛江市の自然と周辺地域、流域、海まで、自然のつながりと広がりを意識できる活動があります。

人が関わることで保全・活用・維持管理される「都市生態系」として、人の快適・安心・安全な暮らしと野生の生きものとのほどよい関係・距離感を市民みんなで考え、実現しています。

レクリエーションや風景、食等、日常的・当たり前に自然の恵みを身近で楽しむことのできる暮らしがあります。

■　身近な自然と人の暮らしが寄り添う

狛江市の自然は、多様な主体の連携・協働によって、人々の暮らしと調和しながら持続的に守り・育てられており、身近に自然のある暮らしを日常的に楽しむ狛江市ならではの自然とのつきあい方が当たり前のこととして根付いています。

また、多摩川の洪水等、自然の脅威と向き合いながら、共に歩んできた経験・歴史を活かし、自然環境を利用した環境保全・防災・減災・地域振興を図る等、自然が持つ多様な機能を活用した取組が進んでいます。

多摩川の水害の記憶を伝えつつ、自然環境も都市基盤の一つとして位置づけ、生きものと共存する考え方が、まちづくりの精神の一つとして組み込まれており、公園や校庭の一角や庭先等、暮らしの身近のいたるところに、生きものが喜ぶちょっとした空間があります。

人だけ、野生の生きものだけ、ではなく、人も生きものも持ちつ持たれつ、ちょっとした知恵とやさしさで、小さな生きものも人も共に生きることができます。

農地を多面的な機能を持つ地域の資源として認識し、安心・安全な農産物の生産や消費を促進しています。地域全体が地域農業を応援し、農家と共に農地を守っています。

古墳や社寺等の歴史資源と自然が一体となって暮らしの風景となり、地域の学びに生きています。

■　自然を将来へ継承する

狛江市の自然を将来へ継承するため、市民・市民団体・事業者全ての人たちが生物多様性の重要性を理解し、その恵みを活かしています。次代を担う若者や子どもたちと共に、自然の魅力や大切さ、自然を活かす知恵を伝えています。

市民が生物多様性について関心・理解を持ち、自らの暮らしのなかで生物多様性の保全に寄与する取組を実践しています。

子どもたちが暮らしや学びのなかで、身近に自然に触れ、様々な体験や交流を通じて「生きる力」「豊かな心」を育み、生き生きと輝いています。

3.2　戦略の 10 年間でめざす目標

本戦略の対象期間である令和 11（2029）年までに実現することをめざし、次の３つの目標を掲げます。

目標①　市民による生物多様性の「認知度」の向上を図る

市民に**「生物多様性」**の意味や取組が浸透していることの目標として、市民の過半数が**「意味も含めて知っている」**という状態をめざします。

（18 才以上の市民を対象とした市民アンケートによる）

「生物多様性」の意味を知っている市民の割合

30.5%（平成 30 年度）※→　51%以上

※平成 30（2018）年度に実施した市民アンケートにおける「生物多様性」の認知度（p36 参照）

目標②　生きものを育む「緑の量」を確保する

「動植物の生息・生育空間の量を確保する」ことの達成状況を確認するための目標として、減少傾向が続いている緑被地面積の現状維持をめざします。

緑　被　率*

24.32%（平成 30 年度）→　26%以上

※「＊」の付いた用語は、資料編に用語解説を掲載しています。

目標③　自然環境の質を測る「指標種」の生息を確保する

「動植物の生息・生育空間の質を確保する」ことの達成状況を確認するための目標として、狛江市の都市生態系を構成する水辺・樹林地・草地等で現在も生息が確認されている動物から代表的な種 19 種を選び、**「指標種」**として、その生息が継続的に確認されることをめざします。

多摩川や野川に代表される「水辺」と、社寺林や畑等を含む「緑の多いまちなか」において、それぞれの生態系を構成し、自然環境が良好な状態で保全・維持されることで生息が可能となる代表的な種を生物多様性の質的な目標=指標種として掲げます。

「指標種」の選定にあたっては、それぞれの生態系の頂点に立つ肉食の種、生活圏が広域にわたる種、ヨシ原や礫河原・草原等、特定の環境を必要とする種、そして、誰もが見つけやすい種等の視点から選びました。

これらの種を「ものさし」として生息を見守ることにより、狛江市の自然環境の質が守られているかを確認しながら取組を進めていきます。

■水辺の指標種（11 種）と生態ピラミッド

チョウゲンボウ・ホンドイタチ・カワセミ・ヒバリ・オオヨシキリ
・ツバメ・ドジョウ・ニホンアマガエル・アカトンボの仲間
・ハグロトンボ・カワラバッタ

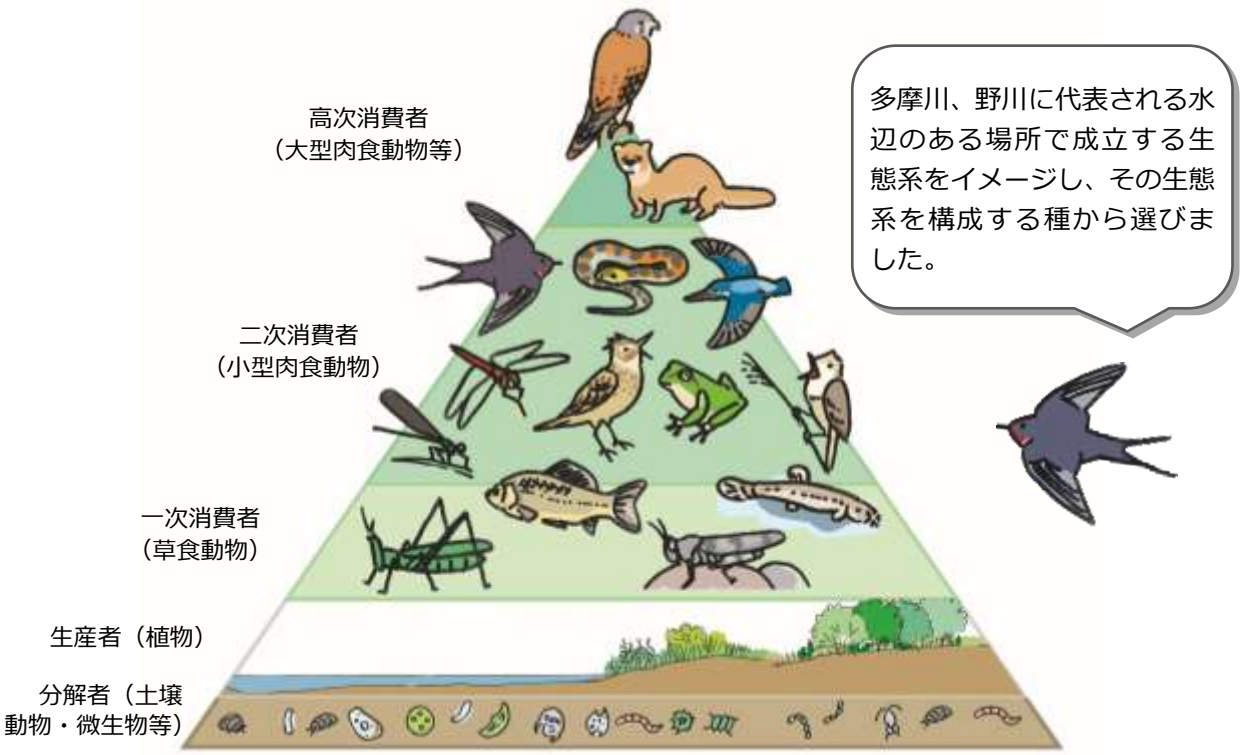

図 3.2　水辺の生態系（イメージ）

■緑の多いまちなかの指標種（９種）と生態ピラミッド

ツミ（タカの仲間）・ホンドタヌキ・アブラコウモリ・モズ・ツバメ
・ヒガシニホントカゲ・ニホンミツバチ・ナナフシモドキ・ヒグラシ

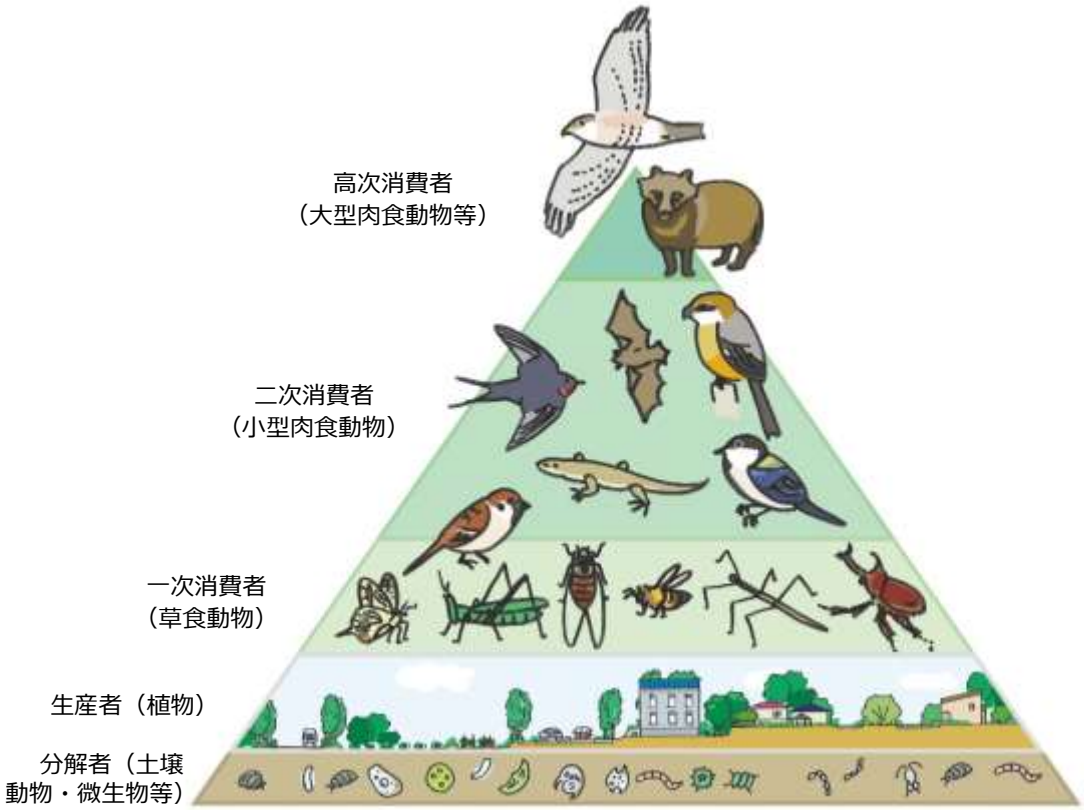

図 3.3　緑の多いまちなかの生態系（イメージ）

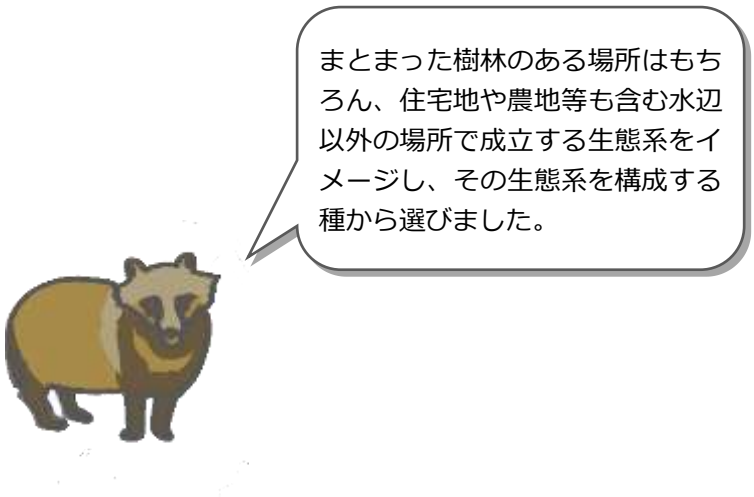

表 3.1　水辺の指標種（11 種）

チョウゲンボウ	ホンドイタチ	カワセミ	ヒバリ
	※		
農耕地や草地等でネズミや小鳥類、カエル等を捕食する小型の猛禽類*。	主に水辺付近の草地に生息し、ネズミ、魚、カエル等を主食に植物の実等も食べる哺乳類。	小魚、エビ類・カエル類等の水辺の生きものを食べ、土の崖に営巣する。	河川敷の草地や農耕地等に生息し、植物の種子や昆虫類等を食べる。春先に空高くさえずる姿を見ることができる。
オオヨシキリ	**ツバメ**	**ニホンアマガエル**	**カワラバッタ**
河川敷等のヨシ原に生息し昆虫等を食べる夏鳥。初夏に飛来し、ヨシ原でさえずる声が特徴的。	巣の素材として水辺の泥等を利用する。南へ渡る夏の終わりには、河川敷等のヨシ原に集団ねぐらをとる。	樹林に囲まれた池沼、明るく開けた池等に生息する体長２～３㎝の緑色のカエル。	時折かく乱されることで維持される大きめの礫がある河原に生息する体長 3～4 ㎝のバッタ。体は砂礫にまぎれる灰色のまだら模様。
ドジョウ	**アカトンボの仲間**	**ハグロトンボ**	
河川の中流～下流、河川敷の細流等に生息、イトミミズやエビ類、珪藻、植物の茎・根・種子等を食べる雑食の魚。	池や河川敷のたまり等の止水域で産卵し、秋に体が赤くなるトンボ。飛翔する小昆虫やクモ、他のトンボ等を食べる。（写真:リスアカネ）	近くに林やヤブのある、産卵できる水生植物の生えた水質の良い、ゆるやかな流れの水辺に生息する。幼虫（ヤゴ）・成虫ともに肉食で、他の昆虫類等を捕食する。	

※の写真：（公財）日本生態系協会提供（※印以外は全て狛江市内で撮影）

※「＊」の付いた用語は、資料編に用語解説を掲載しています。

表 3.2　緑の多いまちなかの指標種（9 種）

ツミ	ホンドタヌキ	アブラコウモリ
※		
スズメ等の小鳥を主食とし、アカマツ等の針葉樹を好んで営巣する小型の猛禽類*。	水辺や樹林地等を含む広い生活圏を持つ夜行性の哺乳類。雑食で農作物に被害を与える可能性もあるため農地周辺では留意が必要。	夜行性で飛翔中の昆虫や水生昆虫等を食べる哺乳類。住宅の屋根裏や雨戸の戸袋等をねぐらとして利用。
モズ	**ツバメ**	**ヒガシニホントカゲ**
		（幼体）
昆虫、甲殻類、両生類、小型爬虫類等を食べ、開けた林縁、農耕地、河畔林（河川敷の樹林）等に生息。	空中を飛ぶ昆虫を捕食し、天敵から守られやすい人家の軒下等で営巣、子育てを行う。春先に日本に飛来する。	地表や地中にすむ昆虫やクモ、甲殻類等を餌とし、石垣の隙間や石の下等で休み、日当たりの良い石の上等で日光浴をする。
ニホンミツバチ	**ナナフシモドキ（ナナフシ）**	**ヒグラシ**
広葉樹の樹洞に営巣し、花蜜・花粉を餌とするため、農作物の受粉に寄与する。農薬の影響による減少が懸念されている。	細長い体で枝や草の茎等に擬態する。エノキ・クヌギ・コナラ・アカメガシワ等、落葉広葉樹の葉を食べる。大きさは 6～8 ㎝前後。	樹林に生息し細長い口を差し込んで樹液を吸う。夏季、朝夕を中心にカナカナカナ･･･と鳴く。オスは約 3～4 ㎝、メスは約 2～2.5 ㎝。

※印の写真：（公財）日本生態系協会提供（※印以外は全て狛江市内で撮影）

※「＊」の付いた用語は、資料編に用語解説を掲載しています。

3.3　戦略の基本方針

めざす自然環境像「子どもたちにつなげよう!身近な自然と暮らしが寄りそう“水と緑といのちが輝くこまえ”」の実現に向け、以下の３つの基本方針に基づく取組を進めていきます。

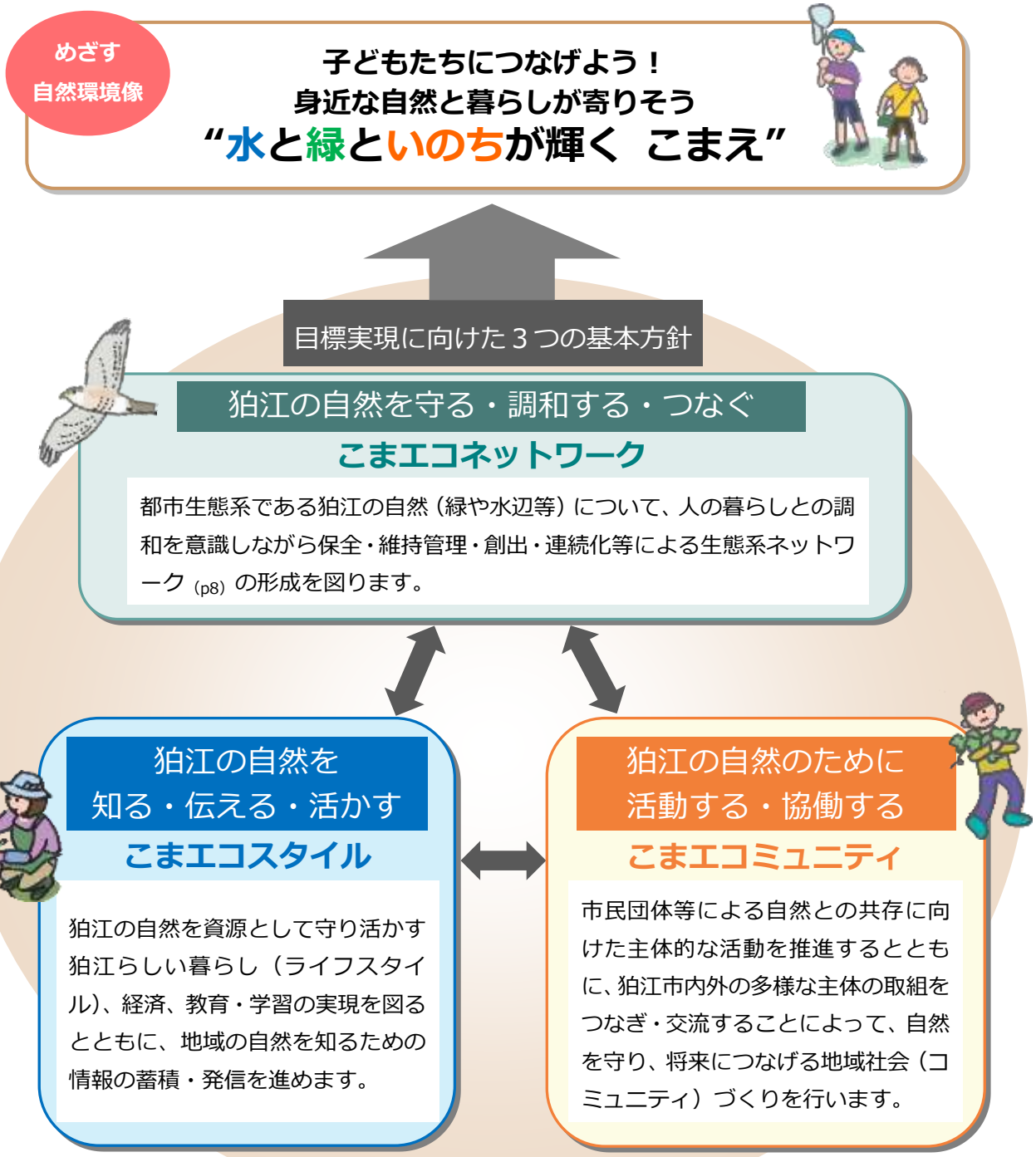

図 3.4　戦略の基本方針